

ちゃんと かわら版



今年6月末まで16年間にわたり恵庭市都市計画審議会委員を務めるなど、市のまちづくりに大きく貢献した市内の学校講師の瀬川真弓さんに8月22日、市から感謝状が贈呈されました。

恵庭市都市計画審議会 委員退任に伴う感謝状贈呈

札幌出身の瀬川さんは、1994年に市内へ転入。その後、さまざまな市民活動を通してまちづくりに興味を

持ち、2008年に同審議会委員に就任しました。在任時はJR恵み野駅西口の開発やJR恵庭駅西口の再開発、観光エリア「はなふる」を中心とした「花の拠点」周辺の地区開発、市の長年の課題だった戸磯の商業施設跡地を住宅用木材製品の工場兼倉庫にすることに尽力。市の都市計画について市民の目線からさまざまな意見

を述べ、まちづくりに貢献してきました。原田市長は「長い間、真摯に審議をいただきましたことを心から感謝申し上げます。これからも恵庭のまちを愛し、見守ってください」とあいさつし、感謝状を手渡し



(編集部 大谷)

原田市長は「宮崎さんは日本と違うものにくさん触れ、いろいろな学んでください。ベッ

カーさんは日本の生活を楽しくください」と話しました。ベッカーさんは日本を訪れるのは初めて。原田市長から好きな食べ物を訪ねられると「日本の食べ物、焼きそばや唐揚

宮崎さんは「英語や習慣など、日本と違う文化にくさん触れたい。特に食の違いを知り、食か



恵庭ロータリークラブ(恵庭RC、大場優光会長)の青少年交換留学事業で、8月18日にアメリカ・ニュー



恵庭RC青少年交換留学事業 受入・派遣交換学生が市長表敬訪問

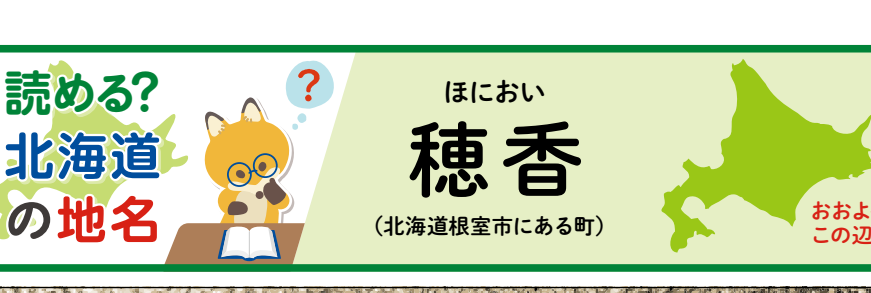
「北海道は土地が広くて驚きました」とアメリカとの違いに圧倒されたと言いました。日本でも学びたいことについて「アメリカでは広島や長崎での原爆投下に関する歴史はほとんど語られていないので、戦争の歴史を詳しく学びたいです。広島や長崎にも、機会があれば訪れたいと思っています」と話しました。

「見える文化の背景についても学びたいです」と留学について意欲を見せ「体操競技を習っているので、留学先の体操クラブで腕を磨きたいです」と異国で得意分野を学び自身の成長を図る姿勢を見せました。

(編集部 大谷)

瀬川さんは「この16年間で恵庭のまちは大きく変わり、とても住みやすく、駅を中心としたまちになりました。今後は車を手放した人たちの生活基盤をどのように守っていくべきかを考え、まちづくりを見守ってきたいです」と話しました。また同審議会について「分からないことを分らない」と言える委員会に感謝しています。まちづくりのプロセスを知ることができて、とてもよい経験になりました」と振り返りました。

原田市長は「今年もご寄付をいただき大変感謝しています」と感謝を述べ、石上会長は「一来年以降も引き続き寄付を続けられるように頑張ります」と話しました。その後、消防職員が昨年の寄付金で購入した拡張現実(AR)技術を使用した火災煙疑似体験装置を披露。カメラ機能付きのゴーグルを装着すると、目の前に炎と煙が音とともに現れ、初期消火活動や避難の方法を学べます。実際に体験した石川会長は「燃える音や時間の経過とともに煙が増えるなど、想像以上にリアルでした。子どもたちも興味を持って火災訓練ができるのでは」と話していました。同装置は今後、事業者や町内会での市民向け防火防災訓練などに使用される予定です。



原田市長は「今年もご寄付をいただき大変感謝しています」と感謝を述べ、石上会長は「一来年以降も引き続き寄付を続けられるように頑張ります」と話しました。その後、消防職員が昨年の寄付金で購入した拡張現実(AR)技術を使用した火災煙疑似体験装置を披露。カメラ機能付きのゴーグルを装着すると、目の前に炎と煙が音とともに現れ、初期消火活動や避難の方法を学べます。実際に体験した石川会長は「燃える音や時間の経過とともに煙が増えるなど、想像以上にリアルでした。子どもたちも興味を持って火災訓練ができるのでは」と話していました。同装置は今後、事業者や町内会での市民向け防火防災訓練などに使用される予定です。

(編集部 大谷)

中古車販売と中古車用品のリサイクルを扱う石上車輛(札幌市清田区、石上剛会長)が8月23日、消防救急体制の充実強化を目的として恵庭市に50万円を寄付。同日、恵庭市役所で原田裕市長から感謝状の贈呈が行われました。

恵庭市下島松に工場を持つ同社は、2007年から毎年同市に寄付を続けてきました。過去には高度救急処置シミュレーター一式、消火体験装置、ドローンカメラ一式、イベント時に子どもたちが着用する救助服、AEDトレーナー、ビデオ咽喉鏡対応の救急用訓練人形などが寄付金で購入されました。今回の寄付金は、市消防本部の防火広報関連費と、市民向けの防火防災訓練に使用する資機材購入費に活用される予定です。



原田市長は「今年もご寄付をいただき大変感謝しています」と感謝を述べ、石上会長は「一来年以降も引き続き寄付を続けられるように頑張ります」と話しました。その後、消防職員が昨年の寄付金で購入した拡張現実(AR)技術を使用した火災煙疑似体験装置を披露。カメラ機能付きのゴーグルを装着すると、目の前に炎と煙が音とともに現れ、初期消火活動や避難の方法を学べます。実際に体験した石川会長は「燃える音や時間の経過とともに煙が増えるなど、想像以上にリアルでした。子どもたちも興味を持って火災訓練ができるのでは」と話していました。同装置は今後、事業者や町内会での市民向け防火防災訓練などに使用される予定です。

(編集部 大谷)

読める? 北海道の地名

ほにおい 穂香 (北海道根室市にある町)

ちゃんと8月30日号 まちがい探しの答え

●木の枝の長さ ●テントの小窓 ●鳥のくちばし ●男性のサングラス ●赤いコービーポットの取っ手 ●ウサギの手元 ●ズボンのライン ●薪の数

裏長屋 経営移行のお知らせ

当店の皆様へ支えられ32年間にわたり営業して参りましたが令和6年8月31日をもって事業を承継することとなりました長年にわたり賜りましたご愛顧対しまして誠に心より御礼申し上げます令和6年9月1日より世代交代し、継続での営業となっております変わらぬご愛顧の程宜しくお願ひ申し上げます長年にわたり賜りましたご厚情に心より感謝申し上げますとともに皆様の今後ますますのご健勝をお祈り申し上げます

感謝

裏長屋 千歳市幸町2丁目10-3 TEL:0123-23-3581 営業時間/17:00~23:00 (L.O.21:00~22:00) 日・月曜定休 佐藤